



第41回通常総代会(2021年6月11日)で承認されました

特集

2030年ビジョン実現に向けた取り組み

～コープしがの2021～

2021年度総代会では、2030年ビジョン「やくだつ・つながる・ひろがる」は、コープしが理念「ともにつくる 笑顔あふれる未来」を実現するための10年後を描いた姿として今までも、これからもずっと組合員の期待に応えて、くらしに役立ち続けることを確認しました。

ビジョンの実現のために3カ年の中期計画(2021～2023年度)を作成し、ありがたい姿の実現のための「土台づくり」として位置づけ、取り組みをスタートさせています。

滋賀県社会福祉協議会と「包括連携に関する協定書」締結 (1/14)

コロナ禍は、生活課題を持つ人へ特に大きな影響を及ぼしており、中でも経済的に苦しい子育て世帯の生活困窮や、様々な悩みを抱える子どもたちの問題が深刻化しています。コープしがは、滋賀県社会福祉協議会と地域福祉について懇談し、地域福祉について一緒に考え行動できるよう、包括連携に関する協定書を結びました。

それぞれが有する人的・物的資源を有効に活用し、地域福祉の発展と共生社会への理解の向上に資することを目的に、「災害時の被災者及び被災地の支援活動」や、「子どもを真ん中においた地域づくり」をはじめとする各分野で連携をすすめていきます。



締結式の様子

「しが子どもの笑顔はぐくみサポート基金」をスタート! (2022/1/17～)

貧困や様々な悩みを抱える子どもたちが“笑顔”で暮らせるように応援する基金を創設しました。組合員が宅配、店舗で提供する県内商品・地場産農産物の利用を通じて、子どもたちや県内生産者を応援できる取り組みです。

積み立てた基金は、年に一度、滋賀県社会福祉協議会がすすめる「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」に寄付します。



在庫商品の寄付

2021年11月からは、物流センターで宅配事業の在庫として確保してある商品を、毎月1回、「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」に寄付しています。



コロナ禍における寄付支援 みんなでがんばろうサポート基金 (2021/3～2022/1)

コロナ禍での生活困窮者や医療従事者をサポートする「みんなでがんばろうサポート基金」に取り組み、県内の大学生協を通じて大学生への支援として262万円を寄贈しました。商品の利用を通して、組合員と生産者、生協の3者が協力して取り組める、生協らしい取り組みをすすめました。

大学生協では寄付金を活用し、「近江牛丼」や「100円カレー」「近江牛コロッケ」などを安価で学生に提供をされました。



大学生のみなさん

フードドライブの取り組み

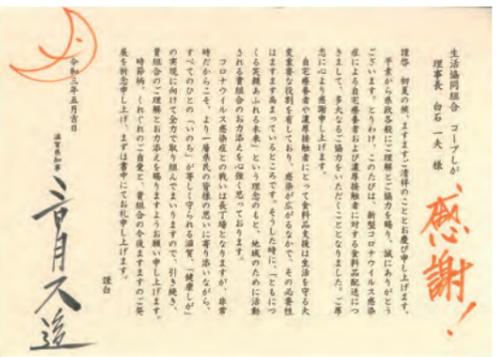
コープしがの各事業所にフードBOXを設置し、組合員から余剰食品の提供を受け、「フードバンク滋賀」・「フードバンクびわ湖」を通して必要とする人に届ける「フードドライブ」の取り組みを行っています。

●2021年度フードボックス回収量：5,765.6kg



食材配達の支援

滋賀県からの委託を受けて、新型コロナウイルス感染などで自宅待機を余儀なくされる方のうち、希望された方のお宅へ食材を届ける「自宅療養者・濃厚接触者食料支援事業」に協力しています(無償)。注文受付や配達の手配は滋賀県が、食材の調達・配達準備はスーパーが、食材の引き取りと配達はコープしがが担当し、協力してすすめています。



～滋賀県との協定に基づく取り組み～ お店での感染予防とコロナ差別防止の啓発活動

滋賀県との包括的連携協定に基づき、コープしがのお店4店舗で新型コロナウイルス感染予防動画を放映しました。

また、人権啓発デザインのソーシャルディスタンスシールをレジ前に設置しました。



2030年 コープしがのありがたい姿

- ① 食の安全・安心を大切に一人ひとりのくらしへの役立ちを高め、生涯を通じて利用できる事業をつくりあげています。
- ② 誰もが安心して暮らせることをめざし、地域の中での役割を担っています。
- ③ 大多数の人々の理解と共感、つながりを力に、持続可能な社会への取り組みを広げています。
- ④ 組合員と生協で働く誰もが、活き活きと輝き、より良くくらしづくりをめざして持続可能な経営を続けています。